

街路樹が都市景観に与える影響について

前橋工科大学建設工学科 学生会員 ○白井 健太郎
 福島工業高等専門学校 正会員 齊藤 充弘

1. はじめに

都市の景観には地域の人々の暮らし方や価値観が視覚的な効果を通して現されており、訪れる人にそのまちらしさを強く意識させる。また、見た目の美しさだけでなく、地域の特徴的なライフスタイルにマッチした都市景観は地域の人々にとって暮らしやすいまちとなり、地域愛の象徴的な対象になるといえる。

本研究では、このような景観づくりの上で、街路樹を主観的な立場に置き換え、その実態と景観に与える影響を明らかにすることを目的とする。

2. 研究の対象と方法

本研究は、いわき市平中心市街地を対象として、以下の手順で行った。

- (1) 街路と街路樹分布に関する現地調査
 - (2) 行政及び剪定業者を対象とした街路樹の管理に関するヒアリング調査
 - (3) 対象景観の抽出と選定
 - (4) 街路樹と景観に関するアンケート調査の実施
- アンケート調査の概要については、表-1に示す。

3. 街路樹の分布と管理について

対象地区内において街路樹のある通りを選定し、その種類、樹形、高さ、剪定の状態より分類し、美観的に優れている場所とそうでない場所を区分した。その上で、剪定の基準について、行政や剪定業者に対するヒアリング調査を実施した。その結果として表-2に示すように、大きく7項目に整理することができた。なかでも、設置上の問題やエキスパートの不在、不完全なマニュアルについては、行政と剪定業者双方においてそれぞれ問題点が指摘されており、街路樹の管理の難しさが浮き彫りとなった。

表-1 アンケート調査の概要

調査項目	1. 美観に欠ける街路樹について 2. 街路樹の機能について 3. 街路樹の有無について 4. 現在と将来の街路樹について 5. 俯瞰したときの街路樹について 6. 回答者の属性(性別・年代)
調査方法	配票調査法・集合調査法
配布数	160票
回収数(回収率)	150票(93.8%)

表-2 街路樹の管理に関するヒアリング調査結果

項目	剪定業者	行政
設置上の問題	限られた条件(気候、日光等)に当てはまる適切な樹種を選定することが難しい。	規格の揃った植栽材料を大量に用意することが困難。
管理に関する規制	—	剪定の回数を減らす(コスト削減)。
防犯上による規制	防犯上、死角となる葉の茂りを抑制。	—
周囲への環境への配慮	電線など周囲の建物の都合に合わせてなければならない。	—
請負側における問題	—	毎年行う剪定業者が変わっている。
エキスパートの不在	個別の樹木の個性を引き出す熟練した剪定技術者が少ない。	街路樹の特性と樹木の生態を理解した管理者がいない。
不完全なマニュアル	行政側のマニュアルに沿って剪定すると樹木の生育に対して多くの制約を受ける。	剪定技法が明確でない。

4. 街路樹が景観に与える影響について

街路樹に対する評価及び都市景観に与える影響をみるために、アンケート調査を実施した。調査は、対象地区内より対象景観を選定して写真を撮影し、その写真を用いて質問する形式をとった。評価項目については、主観的要素、視覚的要素、心理的要素の3要素を5項目ずつ計15項目選び列挙した。また、その評価については5段階の評価点数を用いた。

キーワード 都市景観、街路樹、景観評価、SD法、アンケート調査

連絡先 〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30 福島工業高等専門学校 TEL 0246-46-0830

（１）美観に欠ける街路樹について

美観に欠ける街路樹についての評価を年代別にみたものが図－１である。これをみると、各項目について老年の評価が高くなっており、若年、中年と比較して１点以上高くなっている項目が多い結果となっている。その中では、「整然としている⇔整然としていない」という評価については、他の項目と比較して各年代の評価点が近似しており、年代の違いを超えた共通の評価項目であるとみることができる。

（２）街路樹の有無について

街路樹の有無に関する評価をみたものが図－２である。これによると、「自然的⇔人工的」という項目について若年が 2.6 点、中年が 3.1 点、老年が 3.5 点と若干のばらつきがみられる。しかしながら、全体として同様の評価傾向にあることをみることができる。このように、街路樹がある方が好意的に捉えられるように思われるが、実際は「どちらでもない」という点数 3 前後の結果に止まっている。このことより、街路樹の有無が都市景観に与える影響はそれほど大きくない結果となっている。

（３）街路樹が景観評価に与える影響について

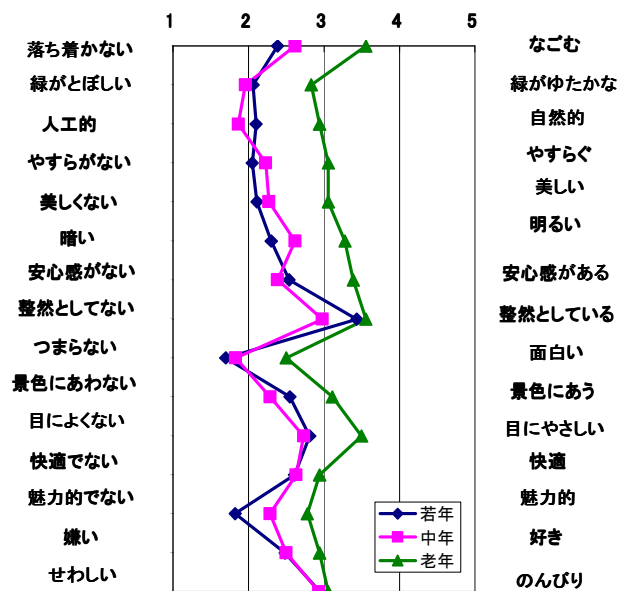
各項目について、その評価の平均点をみたものが表－３である。全体として、美観に欠ける街路樹を除いては点数 3 の平均的な評価に止まっており、街路樹が景観評価に大きく影響を与えるというまでには至らない結果となっている。

５．おわりに

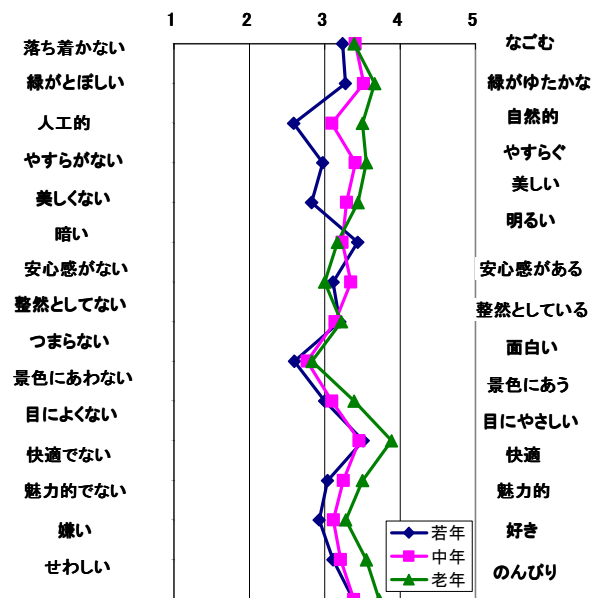
本研究における３つの調査を通じて街路樹の現状、管理、そして一般市民の街路樹に対する感じ方や景観評価について明らかにすることができた。

第一に、街路樹の現状については、植栽されている街路樹の樹種が場所によっては煩雑になっており、同じ地区内でも場所により大きさが異なっていることがわかった。第二に、ヒアリング調査の結果、街路樹の維持・管理を行っているのは行政であり、かつ街路樹は公共の緑のため、その市町村が管理するものという意識が反映された形となっている。第三に、アンケート調査の結果、街路樹の景観評価に与える影響はあまりみることができず、被験者の街路樹に関する意識があまり高くないことがわかった。

これらのことより、街路樹を通して住民の地域へ



図－１ 美観に欠ける街路樹についての評価（年代別）



図－２ 街路樹の有無についての評価（年代別）

表－３ 各評価項目の平均点

調査項目	評価点(平均点)
1. 美観に欠ける街路樹について	2.4
2. 街路樹の機能について	3.3
3. 街路樹の有無について	3.2
4. 現在と将来の街路樹について	3.3
5. 俯瞰したときの街路樹について	3.4

の関心が高まり、樹種選定やその後の剪定等の街路樹に関する活動が地域のコミュニティを形成し、地域の景観を共に形成していくことができるように導くことが今後の課題であるといえる。

参考文献

1) 大島秀樹、榊原和彦：街路景観における街路樹の評価について、土木学会年次学術講演会講演概要集第4部34巻、1979年、pp.310-pp.311